

# 公開講座ダイジェスト2010

跡見学園女子大学公開講座の記録



## 刊行にあたって

跡見学園女子大学は、平成 22 年度より 2 学部 7 学科体制となり、総合大学としての充実を図りました。文学部にあつては、「人文学科」、「コミュニケーション文化学科」、「臨床心理学科」に加えて、現代日本のポップカルチャーを発信する人材を育成する「現代文化表現学科」を設置、マネジメント学部においては、既存の「マネジメント学科」、「生活環境マネジメント学科」の他に、観光立国を支える人材育成を目標とする「観光マネジメント学科」を設置いたしました。

本学の公開講座の実施にあつても、これらの新たな分野をも包摂した方向性を模索しているところです。

平成 12 年度より、本学が実施いたしました公開講座の概要を冊子として公刊してまいりました。その内容はホームページにおいても公開しておりますので、ご参考にしていただければ幸いです。

今後も、社会人入学制度、科目等履修生制度とともに、社会のニーズに対応した本学の特殊ある公開講座を地域に提供し、「生涯学習機関」としての役割を十分に発揮していく所存であります。

平成 23 年 3 月

跡見学園女子大学

学長 山田 徹 雄

## CONTENTS

<b>刊行にあたって</b>	<b>跡見学園女子大学 学長 山田 徹雄</b>	1
<b>春期教養コース（新座キャンパス）</b>	<b>生きる意味</b>	3
1. 人間存在の根源的両義性	本学文学部臨床心理学科教授 片野 智治	
2. 心と体をいきいきと生きる	本学文学部臨床心理学科教授 鶴 光代	4
3. トラブルをつくり出す心	本学文学部臨床心理学科教授 藤澤 伸介	
<b>春期教養コース（文京キャンパス）</b>	<b>跡見流“こだわり旅”への道案内</b>	6
1. 観光によるまちおこし こだわり旅 への道案内	本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 篠原 靖	
2. “歴女”“戦国乙女”を掴め！「歴史を売る」 一天地人の舞台・上越市等の取り組み―	本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 村上 雅巳	7
3. 沖縄の聖地と観光 ―世界遺産の今を考える―	本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 塩月 亮子	
<b>秋期教養コース（新座キャンパス）</b>	<b>跡見流“こだわり旅”への道案内（その2）</b>	9
1. 産業遺産を歩こう ―“産業観光”のすすめ―	本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 種田 明	
2. JAL と ANA の勝負はどこでついたか？	本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 鶴田 雅昭	10
3. 京都・嵐山トロッコ列車の知られざる前史	本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 小川 功	
<b>秋期教養コース（文京キャンパス）</b>	<b>放送と言葉</b>	12
1. 朗読で言葉を味わう	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 広瀬 修子	
2. あなたを変える話し言葉	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 田中 浩史	13
3. 放送の漢字表記が変わる	本学文学部コミュニケーション文化学科教授 小板橋 靖夫	14
<b>語学コース 英会話</b>		15
	責任講師：本学文学部コミュニケーション文化学科助教 マック・カレン	
<b>語学コース 中国語会話</b>		17
	責任講師：本学文学部コミュニケーション文化学科教授 池上 貞子	
<b>春期パソコンコース</b>	春期講師：本学文学部人文学科准教授 福田 博同	19
<b>秋期パソコンコース</b>	秋期講師：本学文学部現代文化表現学科准教授 伊藤 穰	20
<b>受講生からのレポート</b>		22
<b>資料</b>		27

## 公開講座春期教養コース（新座キャンパス）

### 生きる意味

平成 22 年 5 月 22 日～6 月 5 日（毎週土曜日）

〈講座責任講師〉本学文学部臨床心理学科 教授 片野 智治

本コースの共通テーマは「生きる意味」であり、演者と演題は以下の通りである。また全 3 回の参加者総数は 325 名であり、全 3 回出席者は 65 名であった。

1. 片野智治「人間存在の根源的両義性」
2. 鶴 光代「心と体をいきいきと生きる」
3. 藤澤伸介「トラブルをつくり出す心」

演者鶴教授は「姿勢・動作とこころの活動との関係」「『からだ』を動かして生きている」「こころとからだは一体的・協同的に生きている」「生活体験上の問題、不調は、動作に現れる」「臨床動作法の意義（生活体験・生き方を援助する）」「臨床動作法における動作課題」「援助の視点」といった観点から、共通テーマである生きる意味に迫った。

一方、演者藤澤教授は「意味づけによる束縛」「分類や定義は絶対ではない」「記号とモノとの混同による束縛」「意味における内在外在の混同による束縛」といった一般意味論の観点から、生きる意味にアプローチした。

演者片野は「人間存在の根源的両義性」（仏 Merleau-Ponty, 1908-1961）という観点から生きる意味を探索した。人間存在の両義性の例として、1. 自己と他者、2. 個と集団、3. アンビバレント（両価性、例 愛憎）、4. 生と死を取り上げた。

以上の如く、共通テーマ「生きる意味」に向けた各演者の専門的研究の知見が参加者の生きる意味の探索に役立ったと推測する。

<第 1 回 5 月 22 日>

### 人間存在の根源的両義性

本学文学部臨床心理学科 教授 片野 智治

はじめに

「人間存在の根源的両義性」についてメルロ・ポンティ（仏 Merleau-Ponty, 1908-1961）は実存主義の観点から主張した。彼は実存主義哲学者サルトルやボーヴォワールらと交流を深めていた。

今回の公開講座で、演者は人間存在の両義性の例として、1. 自己と他者、2. 個と集団、3. アンビバレント（両価性、例 愛憎）、4. 生と死を取り上げた。たとえば、自己と他者の側面では、ネガティブな失愛恐怖 rejection anxiety を例示しながら、「ありたいような在り方をする勇氣 Courage to be.」（P. ティリッヒ、精神医学者）にふれた。さらに、個の自覚とふれあい（ホンネの私とホンネのあなたとの交流）の例を挙げた。生と死の部分では、「メメント・モリ（死を忘れるな）」について言及した。

これらをふまえながら、演者は以下の詩 2 篇を紹介した。「ゲシュタルトの祈り」（F. パールズ：ゲシュタルト療法の提唱者）・「私は私のことをする。あなたはあなたのことをする。私はあなたの期待にそうために、この世に生きていてのではない。あなたも私の期待にそうために、この世に生きていてのではない。あなたはあなた、私は私である。もしたまたま私たちが出会うことがあれば、それはすばらしい。もし、出会うことがなくても、それはいたし方のないことである」。

もうひとつの詩「パールズをこえて」（W. タブス）。「もし、私が私のことをして、あなたがあなたのことをするだけなら、お互いの絆も自分自身を失うこと明白である。私がこの世に存在するのは、あなたの期待にそうためではない。しかし、私がこの世に存在するのは、あなたがかけがえのない存在であること

を確認するためである。そして、わたしもかけがえのない存在として、あなたに確認してもらうためである。…(略)

公開講座の参加者同士がお互いを自己紹介しながら、またこのような詩を手がかりにして、生きる意味を探索しあった。

<第2回 5月29日>

### 心と体をいきいきと生きる

**本学文学部臨床心理学科 教授 鶴 光代**

日頃、わたし達は体を動かしながら生活をしている。ここでは、その体を動かしている活動、すなわち動作が心理的健康に深く関係していることについて考えてみたい。

ひとが元気でいきいきと生活しているときは、日常の立ち居振る舞いも伸び伸びとしている。ひとがとまどったり不安がったりしているときは、不安定な立ち居振る舞いやぎこちない動作活動となる。つまり、姿勢や動作から、そのひとの活動の有り様を推測できる。

たとえば、人がものを考えるというとき、考えるという意識的活動と同時に、考える動作をしている。試しに、日常的に為している考えるときの動作をしないようにしてみると、うまく考えられなくなる。考えるときの動作は意識的ではない。意識的ではないが、考えるという活動に必要で不可欠なものである。

考えるという活動に限らず、ひとの日常活動は、意識的ではない主体活動としての「動作」に支えられている。動作を通して体験し、学習し、成長する。動作抜きには生活は成り立たないといえる。

日常生活のさまざまなストレスに対して、人は無意識的に体に力を入れて構え、踏ん張っていく。つまり、からだ・動作でストレスを引き受け、対応し、処理していることが多い。体で引き受けた分、ストレスを自覚せずに（意識せずに）すむのである。肩に力を入

れて対応し、自分を守っている間に、ストレスが解消するならば、肩の力を抜くことができる。しかし、ストレスが続けば、肩には慢性的に力が入り続け肩は硬く固まっていく。心も体も不自由で不調になっていく。

心と体は一体的に活動している関係にあるので、人がいきいきと生きることを志向するとき、それは動作を通して実現できるといえる。その方法として、臨床動作法がある。たとえば、肩弛め動作課題では、肩を後方に動かした状態を保ちつつ、肩を上へ挙げていく動作をする。そうすると、肩の慢性的筋緊張を弛めることができ、肩は楽になっていく。そうした動作をする過程で、人は自分のからだに向き合い、緊張に注意し、それを弛めていく努力をする。そうした一連の活動には自己コントロールの体験が展開し、弛めて楽になった体を実感する過程では、安定感や活動感、自己確実感が生まれてくる。こうした体得は、人がいきいきと生きる基盤となっているといえるのである。

<第3回 6月5日>

### トラブルをつくり出す心

**本学文学部臨床心理学科 教授 藤澤 伸介**

人は、トラブルはいつも他からやって来ると考えがちだ。しかし、人間はわざわざ自分からトラブルをつくり出して苦しむことがある。だから、そのメカニズムを知っていて不必要なトラブルをつくり出さないようにするだけで、生き方が少し楽になる。

「目の前の茶髪でミニスカートの女性が実は障害者だ」という時に、その事実を受け入れられない人がいる。「茶髪」は「自分本位に遊んでいる人」、「障害者」は「車椅子に乗っていて気の毒な人」のように思いこんでいる場合だ。言葉の意味は、現実世界の指示対象を表す「外在的意味」と、聞いた人が頭の中でつくりあげる「内在的意味」の2種類があ

るが、この内在的意味は部分的情報から概念化するので、常に正確とは限らない。

人は自分の概念化を絶対だと思いがちだが、社会で通用している分類や定義ですら、絶対ではないのだ。スイカは、野菜なのか果物なのか？東京青果市場では、食事用を野菜、間食用を果物と分類するから、スイカは果物である。一方で農林水産省は、草の葉や実などを食べるもので毎年育てれば野菜で、木になる果実で何年にも渡って収穫できるものが果実なので、スイカを野菜とみなす。仕事がやりやすいように定義をして、分類はそれに従っているだけなので、定義も分類も絶対ではないのである。「惑星」の定義も 2006 年に変更されたため、冥王星は惑星の分類からはずされてしまった。

だから、ある困った事態に直面しても、それは困った事態だと勝手に分類しているだけということがあり得るのだ。偏見や差別も、誤った認識から出発している。偏見があると目の前の事実が見えないことすらある。勝手な意味づけによる束縛から自由になるためには、「コトバは物ではない」「意味は我々の内にある」といったことを絶えず意識し、事実と意味づけとを混同しないようにすることが必要であろう。

公開講座春期教養コース（文京キャンパス）  
跡見流“こだわり旅”への道案内  
平成 22 年 6 月 12 日～6 月 26 日（毎週土曜日）  
〈講座責任講師〉本学マネジメント学部観光マネジメント学科 教授 小川 功

平成 22 年 6 月 12 日から 26 日まで毎週土曜日の 13 時から文京キャンパスで「跡見流“こだわり旅”への道案内」と題する公開講座を 3 回にわたって実施した。観光の分野では自分らしさにこだわって、これまでとはひと味違う観光旅行のスタイルが今注目されている。そこで本講座では通常の観光コースには含まれない穴場の紹介や、人気の観光地として行ったことはあるけれども、もっと深く知りたい、あるいは現地の人々の生きざまにも触れて地域の良さ、歴史の奥深さを本格的に探求してみたいという好奇心旺盛な方々のために旅の特別メニューを提供することとした。講師は平成 22 年 4 月新設したばかりの観光マネジメント学科に赴任の新任教員 3 名に以下のテーマで委嘱した。

- ①篠原 靖准教授「観光によるまちおこし こだわり旅 への道案内」
- ②村上雅巳准教授「“歴女”“戦国乙女”を掴め！『歴史を売る』—天地人の舞台・上越市等の取り組み—」
- ③塩月亮子教授「沖縄の聖地と観光—世界遺産の今を考える」

①は主に北海道、②は新潟県上越市、③は沖縄県をそれぞれ魅力あふれる旅の対象地を選んで、当地を深く愛する教員が多種多様な視点から跡見流“こだわり旅”への道案内役を楽しく務めた。各回とも旅行好き・歴史好きの中高年齢層はもとより、観光関連の社会人、実際に各地で地域振興、観光振興に尽力されている専門家など、年齢・性別・職域を超えた幅広い受講者に多数お越し頂き、各講師への熱心な質問やご自身の体験談など多数お寄せ頂いた。講演終了後にも講師に意見交換を求める熱心な方々が続出して新設学科の中身

にまで高い関心を寄せて頂き、観光というテーマが幅広く国民的な関心事であることを改めて痛感させられた。学内の諸事情が許さかぎり、当該コースのシリーズ化を前向きに検討したい。

< 第 1 回 6 月 12 日 >

**観光によるまちおこし こだわり旅 への道案内**  
**本学マネジメント学部観光マネジメント学科**  
**准教授 篠原 靖**

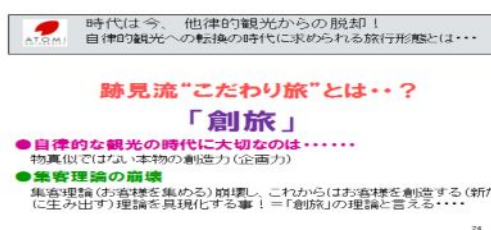
「輝きのある日本へ」と題した政府の成長戦略の柱の一つである「観光による地域活性化」の課題は新たな観光市場の開拓や雇用の創出を行う事にある。本講座では観光による交流人口の拡大を目指す最新の「観光まちづくり」の実例モデルを掲げるとともに、こうした街づくりと連動した現代版エコツアーの成功事例を映像を交えながら考察し、本物志向のこだわり旅の需要拡大に関する分析を行った。

今や観光は従来の観光客を生業にしている事業者だけでは成立しない時代へと変化し「地域の魅力を地域の総力を挙げて創り出す」時代に突入している。とかく金太郎飴のように横並びの観光素材が多い中で、旅行者の旅行動機もこうした地域の個性を求めている。

今回はこうした旅行需要に対応するために整備すべき地域の課題を 5 つのキーワードに分けて分析した。①地域資源を活かす上で、どのような素材に着目するか？（資源発掘の視点）、②これらの資源を活かす上での「顧客価値」は何であるのか？（顧客価値の視点）、③顧客価値創出のための資源の編集・加工の

視点は何か？（資源の編集の視点）、④これらを継続的な事業として発展させるためのビジネスモデルの構築のための工夫は何か？（事業モデル化の視点）、⑤事業を発展させるために、必要となる人材とその育成に関する工夫は何か？（人材育成の視点）

旅行業も新たなビジネスモデルが求められる中でこうした地域の新たな観光誘客に対する仕組みづくりへの支援を地域と協働でつくりあげて行くことが大切であり、従来型の大量仕入、大量販売型の旅行商品からの脱却を可能にするチャンスである旨の指摘を行った。



<第2回 6月19日>

### 「歴女」「戦国乙女」を掴め！「歴史を売る」

—天地人の舞台・上越市等の取り組み—

本学マネジメント学部観光マネジメント学科  
准教授 村上 雅巳

大河ドラマやアニメなどの影響を受けて高まる歴史人気。「歴女」や「戦国乙女」といった新たなターゲットの出現で旅行業界や地域も「歴史を売る」ことに熱い視線を注いでいます。昨年大河ドラマ「天地人」で話題沸騰した上杉謙信・直江兼続ゆかりの新潟県上越市の取り組みなどを中心にその可能性を探りました。

まず、「歴女」とは、歴史好きな女性を指す造語で、女性の多趣味の体現の一つとして、2009年頃から各メディアなどで使用され始めました。また、アニメの世界で戦国武将たちが全て女性キャラクターで登場するいわゆる「戦国乙女」も人気を博しています。このような影響により、例えば、関ヶ原の古戦場

や城跡などに、歴女の観光客が増えていますし、歴女による武将のコスプレが流行るなどの社会現象が起きました。そこで私が4年間在職した上越市の取り組みとして「天地人博」と「謙信公祭」を取り上げ、日本名城100選にも選ばれた春日山城跡を頂く「歴史文化のまちを売る」ため、いかに歴史好きな人たちに、特に歴女にアプローチしたかを披露するとともに今年の「謙信公祭」の最新情報なども提供しました。「天地人博」に関しては大河ドラマとのタイアップはもちろんのこと大河ドラマの世界を体感できることをアピールするとともに、長期開催のため、春夏秋冬の花・食・祭りなど地域の既存の観光資源の連携を重視したこと、「謙信公祭」は何と言っても大河ドラマ「風林火山」で謙信役を演じたGacktさんのゲスト招聘による祭りとしての知名度アップ及び歴女を含む女性観光客への訴求効果などに言及しました。女性をターゲットにする場合、「食」がキーワードになることにも触れ、歴史と絡めた地元ならではの「かちどき飯」や「蓮御膳」なども紹介しました。いずれにしても、地域が「歴史を売る」にしても観光は地域の総合力が試されるものであり、そこにはその歴史文化を守り育てていく「人」の存在が必要不可欠であるとしてまとめを行いました。

<第3回 6月26日>

### 沖縄の聖地と観光

—世界遺産の今を考える—

本学マネジメント学部観光マネジメント学科  
教授 塩月 亮子

現在、急激な観光化が進む沖縄では、地元の人々により信仰されてきた聖地もその影響を受けつつある。2000年、琉球王国のグスク及び関連遺跡群のひとつとして世界遺産に登録されたセーファーウタキ（斎場御嶽）は、その最たるものといえる。そこはかつて、琉

球王国を庇護する神女のいる久高島を国王が遥拝するための聖地であり、靈威の高い場所として地元の人々から崇められてきた。しかし、世界遺産登録後は以前にもまして観光地として注目され始め、観光客の増加による環境破壊、従来の信仰に対する変化の要請（線香や紙銭に火をつけてはいけない等）、遺産保存によるバリアフリー化の困難さなど、多くの問題が新たに生じることとなった。

このような問題点を解決し、聖地の世界遺産化・観光化を地元にも益のあるものとするには、地元の人々の間で培われてきた民俗知が有効な鍵となる。具体的には、(1)聖地巡礼の慣習、(2)ウトゥーシ（お通し）とよばれる宗教的中継の観念、(3)オナリ神信仰といわれる女性の宗教的優位性などの伝統文化が、観光の収奪性を抑制・変化させる力をもつと考えられる。

たとえば、セーファーウタキ（斎場御嶽）を抱える南城市は、ここ数年来、市内にある聖地群を自転車や徒歩で巡る「国際ジョイアスロン」と称するツアーを企画・実施している。これは現代版聖地巡礼の創出とみなすことができる。このツアーは地元と外部からの参加者が約半々であり、その土地の歴史や文化、自然に触れる機会を与える企画として人気を集めている。

この事例のように、聖地が外部にも開かれることにより、より多くの人々が豊かな体験を共有できるようになれば、そこには外部者による一方的な収奪とは異なる、新たな観光文化が生まれる可能性がある。従って、今後は聖地の観光化が単に経済効果の観点からのみ促進されるのではなく、地元および外部者の精神的充足の場の提供につながるよう、創意工夫を重ねていかなければならない。

## 公開講座秋期教養コース（新座キャンパス）

跡見流“こだわり旅”への道案内（その2）

平成22年10月9日～10月23日（毎週土曜日）

〈講座責任講師〉本学マネジメント学部観光マネジメント学科 教授 小川 功

平成22年10月9日から23日まで毎週土曜日の13時から15時まで新座キャンパスで「跡見流“こだわり旅”への道案内（その2）」と題する公開講座を3回にわたって実施した。知的な好奇心に基づいて、自分らしさにこだわる観光のスタイルを提唱した春期の「跡見流“こだわり旅”」が幸いに好評だったので、秋期も同様な視点から通常の観光コースにはない“こだわり旅”を提唱することとした。すなわち従来はとても観光の対象とは見做されてこなかったような産業用の工場、生産設備、輸送施設等や、旅客にとって目的地に到達するための単なる移動手段にすぎなかった各種の交通機関等をも観光の対象に取り込み、種々考察を加えて楽しもうというものである。こうすれば観光の対象が従来より飛躍的に拡大するばかりでなく、退屈な移動時間そのものも興味が湧く対象として楽しめることとなる。講師は観光マネジメント学科教員3名が次のテーマを分担した。

①種田明教授 「産業遺産を歩こうー“産業観光”のすすめー」

②鶴田雅昭准教授「JALとANAの勝負はどこでついたか？」

③小川功教授 「京都・嵐山トロッコ列車の知られざる前史」

①は主に石見銀山・富岡製糸工場等、②は二大航空会社、③は著名な観光鉄道をそれぞれ魅力あふれる旅や考察の対象に選び、これらを深く愛して来た教員がそれぞれ産業考古学、経営史、鉄道史などの領域から跡見流“こだわり旅”への道案内役を務めた。各回とも旅行好き・歴史好き・乗り物好きの中老年層はもとより、観光関連の実務家までも含む幅広い各層から熱心な受講者に多数お越し頂

き、各講師への熱心な質問やご自身の貴重なご体験談など多数披露頂き、講師側としても教えられるご指摘も多く大変勉強になった。観光というテーマが決して専門家を名乗る少数者だけの専有領域ではなく、幅広く国民的な関心事・共有財産であることを改めて痛感させられた次第である。

<第1回 10月9日>

### 産業遺産を歩こう

ー“産業観光”のすすめー

本学マネジメント学部観光マネジメント学科

教授 種田 明

産業観光は、近年急速に普及した新しい「観光」のかたちです。それは「（「観光立国宣言」に基づく）観光立国行動計画」（2003年小泉内閣）に「産業に関する施設や技術等を用い地域内外の人びとの交流を図る観光」とされ、観光対象を産業の過去・現在・未来であるとしています。（経済産業省による‘産業観光の分類’を表示し解説した。）

本講座では、とっておきのスポットとして（1）石見銀山とその文化的景観（世界遺産・2007年登録）（2）富岡製糸場と絹産業遺産群（3）金と銀の島、佐渡一鉱山とその文化（4）九州・山口の近代化産業遺産群ー非西洋世界における近代化の先駆け、の4つをとりあげ写真と地図とおしゃべりで「紙上紀行」に出かけました。（2）～（4）はいずれも世界遺産候補（国内「暫定リスト」記載済）の産業遺産だから“とっておき”なのです。

まず、世界遺産に登録されるために各候補が抱える問題点を指摘し、OUV（顕著な普遍的価値）とされる歴史遺産としての価値（み

どころ)を、絵やグラフなどで図解しました。対象となる遺産を「単」体ではなく、遺産「群」として世界遺産委員会へ申請することをシリアル・ノミネートといいます。あまりにも距離が離れている場合((4)は28カ所のうちの1つが岩手県釜石市にあるから)リストへの登録は難しい。

また近年、文化遺産も「バッファーゾーン(緩衝地帯)」を必要としますが、開発が進み民家や道路が際まで迫って来ている日本はその余地がほとんどないのです。さらに、現在稼働中のものは文化財保護法の適用外なのです。これらの問題解決には産官学民の知恵と協力が必要なのです。

最後に、経済産業省制作のDVD『初めての近代化産業遺産』(高校大学から一般向け:ドラマ仕立て、旧八幡製鉄所・豊田式環状織機が完成・操業に至るまでの「近代化」に寄与した人とモノ(産業遺産)を高校生沙弥の眼を通して知り、理解を深める)を紹介・上映し、来場者との質疑応答をおこなって講座を締めくくりました。

<第2回 10月16日>

### JALとANAの勝負はどこでついたか?

**本学マネジメント学部観光マネジメント学科  
准教授 鶴田 雅昭**

戦後期、JAL・ANAの設立から今日に至る経緯、および日本の航空政策の変遷を顧みる中で、両社の性格の違いについて考察を行い、勝敗の原因を検討した。

JAL設立に関与した経営者およびこれを支えた技術者の多くは、第二次大戦期の国策航空会社、大日本航空の関係者であったこと、歴代の経営者の多くは政策当局者の天下りであったことなどから、政府と二人三脚で経営を行うことを得意とした。規制下のJALは、フラッグ・キャリアとして国際線の運航を独占するとともに、外貨減らしの一策として大

量購入したジャンボ機を活用し、政府による邦人海外旅行者の促進を背景にジャルパックで大量送客を行い、IATA加盟会社で1位を占めるまでに発展した。

これに対して、ANAの経営者は、昭和初期に交通手段としての航空の確立を模索した朝日新聞社東西定期航空会および大阪堺の日本航空輸送研究所の関係者であり、これら二社はともに大日本航空の前身に位置する国策会社の日本航空輸送設立時に撤退を余儀なくされたことから、航空は民間会社形態が望ましいという意識や国策会社への対抗意識が大きく、JALを激しくキャッチアップして規制下における国内線で最大手の航空会社にまで発展した。

こうしたJALとANAの経営理念の違いは、航空自由化を背景とする航空会社の世界的な競争時代に経営戦略の違いとなって顕在化した。ANAがアライアンスに加盟や、ホテルを始めとする関連会社の切り捨てを主体とする大規模なリストラによって本業回帰と新たな投資のための資金調達を行い、世界的な大競争時代の生き残りを模索したのに対し、JALは戦略的協調でもあるアライアンス加盟やリストラに大きく後れをとり、これらが原因で経営を極度に悪化させ、今日に至ったのである。

以上のことから、JALとANAの勝敗の要因は両社の経営理念の違いにあったと言えよう。

<第3回 10月23日>

### 京都・嵐山トロッコ列車の知られざる前史

**本学マネジメント学部観光マネジメント学科  
教授 小川 功**

京都の西部・嵯峨嵐山トロッコ列車は国鉄改革の一環として鉄道そのものを魅力ある観光資源に変貌させた好例。昔から関西私鉄は観光に注力してきたが、嵐山を擁し外人誘致

に熱心な京都鉄道（現JR嵯峨野線）は欧米のOBSERVATION CARに倣い1901年8月新趣向として納涼観月列車を運行した。乗客から「不要な天井を取って」「次は雪見列車、観楓列車を頼む」「コタツ列車もいい」との声援が飛ぶ盛況で、これが現在のトロッコ列車のルーツといえる。約90年後の1989年山陰線の複線電化時、トンネルに切替えられ廃線となった嵐山～亀岡間をトロッコ列車として復活させた。保津川に沿った区間は車窓から素晴らしい景色が楽しめるため乗客に大好評。既存の映画撮影所をテーマパークに流用した近くの太秦映画村と同じく嵯峨嵐山は余り金をかけず遊休物利用の観光振興策が成功した希有な例。

また当該区間を私鉄として建設した京都鉄道の本社の建物は京都駅の梅小路に移築・保存されており、創立者の田中源太郎旧邸も七代目小川治兵衛の造園した庭園とともに料亭「楽々荘」として亀岡に残されている。田中は皮肉なことに、現在トロッコ列車の走る区間の列車事故で後年に死亡した。この京都鉄道を有望な株式と見た埼玉県飯能の出身の横浜財界の大物・平沼専蔵は株式を買占め一族で大株主に名を連ねた。京都鉄道は1907年国有化されたが、近年阪神を買占めて大儲けした村上ファンドのようにはいかなかったようだ。最後に嵐山に近い保津川沿いの対岸に見える素敵な旅館は2009年末オープンした「星のや京都」という京都でもトップランクの高級旅館。上記の観月列車でも趣向を凝らしたイベントの舞台になった老舗旅館「嵐峡館」を大手の星野リゾートが継承して改修したもの。以上、“跡見流”にこだわって、私鉄時代に遡って成立に関わった人物や歴史を紹介した。ごく短い区間のトロッコに乗車の際に、こうした因縁話を仕込んでおくと、旅行が3倍楽しめるというお話。

## 公開講座秋期教養コース（文京キャンパス）

放送と言葉

平成 22 年 11 月 6 日～11 月 20 日（毎週土曜日）

〈講座責任講師〉 本学文学部コミュニケーション文化学科 教授 田中 浩史

今回文京キャンパスで行われた「公開講座秋期教養コース」では、総合テーマを「放送と言葉」とし、放送現場の経験のある 3 人の実務家教員が、個別のテーマにそって、経験談を交えながら市民の受講生等に熱く語りかけた。

広瀬先生の「朗読で言葉を味わう」講座では、テキストがわりのプリントを受講生全員に配り、実際に声を出してもらったり、模範の朗読を披露したりしながら、終始なごやかな雰囲気の中で講座がすすめられた。「朗読」については、中高年層を中心に熱心な固定ファンの方も多く、参加者は、講師の一言一言に大きく頷いたりメモを取ったりしていた。中には、ボランティアで朗読奉仕や読み聞かせを実践している方もいて、少しでも自分の朗読に活かすことができないかという学習意欲がみなぎっていて、好評を得たものと感じている。

田中が担当したのは「あなたを変える話し言葉」というテーマで、パワーポイントとレジュメを使って、人は「話し言葉」の使い方ひとつで人生をも変えることができる、と説いた。詳細は別項で報告する。

小板橋先生の「放送の漢字表記が変わる」についての講座では、やや専門的な講座であるにもかかわらず、熱心な受講生が詰めかけた。放送のテレビ画面（NHK）で使われる漢字や文字の表記の仕方が、極めて慎重に調査・研究を重ねて決定されていることに驚いた受講生も多かった。常用漢字表は、情報化時代に対応できるようにするため、これまでの 1945 字から 2136 字に増えることになるが、徐々に公文書のほかに放送・新聞、さらに教科書などでも使われるようになるため、市民

にとっても、お子さんのいる家庭にとっても他人事ではない。また耳の聞こえない人たちにとっては、視覚から伝わるテレビ画面の貴重な情報源である文字表記がどう変わるかは、放送という媒体のわかりやすさの目安にもつながるため、弱者への視点が重要であることも伝わったように思う。

全体として、3 人の講師が放送現場を離れて大学という教育研究機関に身を置き、改めて「日本語」や「話し言葉」などの魅力、奥深さについて、冷静かつ客観的にお話しすることができたのは大きな収穫であった。また受講生にとっても新鮮な講座になったのではないかと総括する。こうした経験を活かして、次の機会へつなげていきたい。

<第 1 回 11 月 6 日>

### 朗読で言葉を味わう

本学文学部コミュニケーション文化学科

教授 広瀬 修子

通常は目で読む文学作品などを、「声の作品」として聴き手に届けるのが「朗読」である。聴き手をその作品世界にすっかり引き入れることが理想だが、「朗読」は平板・単調に陥りやすく、“立体的な”声の作品をつくりあげるのは容易ではない。同じ大きさ、同じ濃さで並んでいる活字に、大小や濃淡の変化をつけ、浮き上がらせたり、彫り込んだり……。さまざまな工夫や演出が必要なのである。だが、そこに至るまでにクリアすべき基本がいくつかある。

何より、ひとつひとつのセンテンスを、〈文意どおり〉に伝えられなくてはならない。まず、意味のつながりに息を合わせる。そ

して、意味を伝える決め手は、イントネーション、つまり、音の上がり下がり＝抑揚であることを、押さえておきたい。意味のひとつながりの、出だしを高くし、しだいに音を下げていくのが、日本語の基本イントネーションなのである。

さらに、ひとつひとつのセンテンスが読めるだけでなく、センテンス同士の関係、段落と段落の関係も、声で読み分け、平板を避けなくてはならない。

また、そもそも、声の言葉は、音声化される端から瞬時に消えるものであり、一度きりの音声表現で意味内容を理解できることが大事だ。「あれ？」と、なにか引っかかるころがあれば、聴き手はその先が聞けなくなる。

しかし、一字一句が明瞭に聞こえさえすればよいというわけでもない。すべてが強調されれば、結局は、どこも際立たず、伝えたいことが的確に伝わらない。しっかり伝えるべき「山」と、さらっと読み進む「谷」を読み分けることが肝要なのだ。

聴き手を退屈させないために、声の高低、緩急、間などをいかに工夫するか。試行錯誤を繰り返しながらも、ひとつひとつの言葉を味わい、作品の組み立てを吟味しつつ、目標をめざす「朗読」は、時に難行とも思えるが、それだけ奥が深いといえるかもしれない。

講座当日は、同じキャンパスでの記念シンポジウムと時間が重なったにもかかわらず、向学心旺盛な大勢の皆さんに参加していただき、活発な質問が続いたことにお礼を申しあげたい。

<第2回 11月13日>

### **あなたを変える話し言葉**

**本学文学部コミュニケーション文化学科**

**教授 田中 浩史**

私が担当した講座は、「公開講座秋期教養コース」のうちの2回目、「あなたを変える話

し言葉」というテーマで、パワーポイントやレジュメを使って、人は「話し言葉」の使い方ひとつで自分の人生をも変えることができる、というお話をした。テーマに対して半信半疑の人も含めて100人余りの熱心な受講生が熱心に話を聞いてくださった。

中でも特に、日本語の「話し言葉の特徴」については関心が高かった。日本語の「話し言葉」は、会話の相手に言葉が伝わることによって初めて価値が生まれること、話すそばから消えてしまう頼りない言葉であること、話す順番や話す技術の巧拙によって伝わり方が異なること、若者言葉は多分に誤解を招く危険をはらんでいること、などについて具体例を交えてお話したときには、大きな反応と共感を得たように思う。

また、話し言葉の具体的なテクニックとして、「声の大小や高低」を工夫すること、単調な話し方ではなく「抑揚」をつけること、「文章の区切り方」に気をつけないと意味を誤解されてしまうこと、「間」を十分にとると聞く人の関心をひきつけられること、「繰り返し」や「ジェスチャー」を交えると印象に残せることなどについては、メモを取る人も見られ、講師が実演したことで、さらに理解を深めてもらうことができたと思う。

「話し言葉」を変えることであなたの人生を変えることさえできる、というテーマはいささか大げさな感じがしたかもしれないが、実際に、普段の生活の中で話し言葉を変えれば、印象も良くなり、その人の周囲に集まる人が変わり、多くが集うようになる。それらの人と力をあわせて、自分ひとりではできないことを実現できたり、夢を咲かせたりすることもできるのである。だから喜びに満ちた生き生きとした人生を送ることも可能なのだ。

日本語の乱れが指摘されて久しい。低年齢層の子供たちの凶行やモラルを欠いてモンスター化した中高年層、社会の安寧を担ってきたはずの高齢者・老人の暴走が目立つ今日だ

が、その社会的要因の1つにコミュニケーション能力の不足も指摘されている。その状況を克服するため、時代は「書き言葉」でもない「おしゃべり」でもない「公共的な場での話し言葉（パブリック・スピーキング）」の訓練が求められている。

講座の終了後には、質問や資料の提供を求める受講生もいて、話の内容はそれなりに市民の皆様が届いたように思う。こうした公開講座の機会を活かして、また研究や教育の成果の一端をお話ししたいと考える。

<第3回 11月20日>

### 放送の漢字表記が変わる

本学文学部コミュニケーション文化学科  
教授 小坂橋 靖夫

国の「常用漢字表」が1981（昭和56）年の制定以来29年ぶりに初めて改定され、2010（平成22）年11月30日に内閣告示された。常用漢字表は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送、さらに学校教科書などの漢字使用の目安とされている。私の講座担当日は、内閣告示10日前の11月20日であった。私は、講座日の約半年前までNHK放送文化研究所で、放送における漢字使用について調査・分析を行っていた。

放送局や新聞社は、常用漢字表（1945字）を目安とし、各社によって基準が多少違うが、使用する漢字を50字程度拡大してきた。常用漢字表改定では、196字追加（5字削除）されて2136字となったが、難読字や画数の多い字もかなり追加された。

常用漢字表にない漢字を使う語を表記する工夫には「同音漢字を使った書きかえ」（＝代用表記）などがある。改定では、代用表記が定着したと思われる語についても、本来表記に使用する漢字が追加されたため、本来表記に戻すべきか定着した代用表記を継続すべきか、一つ一つの語について判断した。「壊滅／

潰滅」「憶測／臆測」「破棄／破毀」などである（左側が代用表記、右側が本来表記。改定で「潰・臆・毀」が追加）。

同訓異字の使い分けも、悩ましいものがかかり生じた。「はる／張・貼」「あと／跡・痕」「きる／切・斬」などである（改定で「貼・痕・斬」が追加）。

国民が追加漢字を読めるかどうかの調査を国が実施しなかったため、NHK放送文化研究所が2009（平成21）年に全国の高校3年生1万1000人を対象に行った漢字調査で正答率が低かった設問を紹介した（「進捗、間隙、遡上、古刹、恣意的、汎用性」「蔑む、嘲る、綻びる」など）。高知識層に属する受講者が多かったと思われるが、スナナリとは読めないものもあったようだ。

また、ルビなどの読み仮名は、新聞はつけやすいが、放送はルビの字が小さいので読みにくい。さらに放送は、わからないことばがあっても読み返せないうちに次に進んでしまうという、“一過性”の課題を抱えている。このため、放送における漢字使用は、視聴者の読みやすさと情報の伝わりやすさの2点を十分に考慮すべきであるとしめくり、講座を終えた。

## 語学コース

春期:5月15日~7月17日 毎週土曜日

秋期:10月2日~12月11日(10月30日を除く)毎週土曜日

### 英 会 話

#### 〈講座責任講師〉

本学文学部コミュニケーション文化学科

助教 マック・カレン

(春期)

4つのレベルとも順調に終わりました。今年は、講師になっている先生方のおかげで、特に受講生のモチベーションが高まり、よく上達していきました。また、受講生からもうれしい感想を多くいただきました。

各コース別に振り返っていくと、入門コースの古田島綾子先生のクラスでは、ネイティブ・スピーカーに通じる英語が話せるようになるために、CDとイラストを使いながら、ネイティブ・スピーカーに近い発音を練習しました。またペア・ワークで日常的なコミュニケーションを練習し、“簡単な自己紹介”から始まり、“感情表現”、“意見を言うこと”を経て、“自分の身のまわりのものの客観的な説明”まで進んで、楽しい雰囲気の中で行いました。

初級コースの芝田先生は、今年は社会人相手の公開講座によく慣れたようです。学生とは違った教え方が求められたので、CDなどの音声を多く取り入れながら勉強させました。その結果、受講生たちは日本語の説明がある英会話から、ネイティブによる英語のみの英会話へとうまく進むことができました。

中級コースのクレル先生のクラスでは、最初は遠慮もあったようですが、皆の前で話すかわりに、グループワークでの会話を練習しました。その結果、受講生が自分の意見が言えるようになり、自信もできて、そのチャレンジも楽しんでいるようになりました。英会話を練習しながら、色々な文化についても学んで、それとともに、シチュエーションによって相応しい表現が使えるようになって、

実際のコミュニケーション環境で学ぶことができました。

上級コースのスコット先生のクラスでは、受講生のモチベーションが高く、受講生がディベートのトピックを決めて、お互いに助け合って、トピックについて調べ、ディベートの準備をして、プロブレムソルビングしていました。“Should high school tuition be free?”、“Are women-only train cars necessary?”、“Is sex education necessary?”、“Are manga good or bad?” などについてディベートしました。スコット先生はベテランで、人気のある先生であり、リピーターが多いです。例年通り、最後の授業の後で受講生達とパーティーを行いました。

以上、ざっと振り返ってみましたが、今年の講座を担当している先生とそのクラスは非常に良かったです。最後に、本年以降、講座を担当している講師の方々がもっとよく、お互いにコミュニケーションができるように全員がメールアドレスを持っている環境になることを望んでいます。

(秋期)

This year witnessed another successful completion of the Koukaikouza English Conversation classes. This year's students were especially bright and enthusiastic. I believe the students all had a fruitful year and greatly improved in their English conversation skills.

I had an opportunity this year to participate more actively in the class sessions. Professor Shibata was not able to make the first lesson of his class, so I was able to substitute for him and teach the

first class meeting. I was very impressed with the students in the class; they were highly enthusiastic and eager to learn. I think several of the students have greatly improved in their English ability and are actually ready to move up to the next level. It speaks well of Professor Shibata and his class that many of his students enjoy his class so much that they prefer to repeat his class rather than moving up to a more advanced course. Regrettably Professor Shibata will be leaving the Koukaikouza course this year, but happily we will gain a new instructor, Professor Oliphant.

In addition to Professor Shibata's class, each course had several success stories and interesting anecdotes, the highlights of which the professors themselves have reported in their own words.

#### **Beginners' English Conversation Taught by Professor Yoshida**

古田島綾子先生「はじめての英会話」

本講座は“簡単な自己紹介”から始まり、“感情表現”、“意見の主張”を経て、“自分の身のまわりのものの客観的な説明”まで進みました。10回の講座を終えて一番多かった感想は「さらに英語を勉強していきたい」というものでした。次回もまた本講座の受講を希望される方、ひとつ上の講座に挑戦される方、本格的に資格試験に取り組まれる方、海外へ行かれる方、受講生の皆さんそれぞれが今後の目標に向けて巣立っていかれました。本講座を皆さんの夢のスタートラインとしていただければ、これほどうれしいことはありません。

#### **Easy Study of English Conversation Taught by Professor Shibata**

芝田興太郎先生「やさしく学ぶ英会話」

One of the highlights of this course has been the presentation of essays prepared by members of the class, or rather made ad lib. The students are expected to write a hopefully around 100-word essay on selected topics such as “My Residence,” “The person I am Interested In,” or “What I want to do Next year,” and read it out to the class, then followed by spontaneous questions and comments from peers or the instructor, either in English or Japanese. With occasional technical advice from the coach, very motivated students have written really wonderful essays to impress the whole class.

#### **First Step Intermediary English Conversation Taught by Professor Culell**

クレル先生「一歩進んだ英会話」

This year's Koukaikouza course was another successful foray into the English Language. The classes were divided into two types. One class focused more on speaking whilst the other on listening. In the speaking class the students were kept on their toes having to express opinions on a wide range of topics ranging from consumerism to stereotypes. The students did a fantastic job of building up their vocabulary and then successfully using these new words to express their feelings. To the students credit, we were even able to engage in some mini-debates where students not only expressed their opinions but gave logical justifications for them. The listening class used "real" English T.V. commercials that had won awards for their quality. This pushed the students to their limits but everybody rose to the challenge and were able to complete the tasks

assigned to them. I would like to thank the students for their hard work and their enthusiasm and I look forward to the next Koukaikouza classes.

### **English Debate Class Taught by Professor Scott**

スコット先生「ディベート英会話」

The debate class was especially successful this term. Attendance and enthusiasm were excellent, and the overall English level of the students was extremely high. The purpose of the class was to improve the students' critical, analytical and argumentative skills. Each lesson consisted of three parts: (1) voluntary speeches, (2) group work/debate, and (3) instructor feedback. This term's resolutions included "Japan should increase the number of foreign workers," "Electronic books are better than paper books," and "English should not be a required subject in school." As always, the students chose the topics themselves on the first day. The time flew by quickly and everyone was highly motivated. The last class was followed by a bowling party, dinner, and 2-3 hours of karaoke.

I am sure that next year's Koukaikouza courses will be equally successful, and look forward to a new mix of students and professors. Until then, let's all enjoy our Spring break to gear up for next years classes!

中国語会話

〈講座責任講師〉

本学文学部コミュニケーション文化学科

教授 池上 貞子

(春期)

今回も両クラスともリピーターがかなりの比重を占めており、基礎固めのクラスでは最高は5回目という人がいた。もちろんまったくの初習者も一定数いるわけで、授業運営の困難さは想像にできる。

中国語の基礎固めのクラスでは、いつものように発音など懇切丁寧に個々に応じた指導を行ない、後半で中国語会話の要素を取り入れた。希望者には既成のテキストを購入してもらったが、CDが付いていて予習復習が可能のためか、好評であったようだ。中国語検定を受けたいという積極的な人たちのために、過去問を使うなどして、興味を持続・発展させる工夫も凝らしている。

日常会話の中国語のクラスには、今回4名の新しい参加者があったが、もちろん既習者でレベルは高かった。講座のたびに新しいテーマで作文を試みており、今回のテーマは1から10までの数字にかかわるもの。途中、少し息切れが感じられたので、7までにしたということであったが、参考までに提出された複数の受講者の作文を見ると、かなり成果があがっていることがわかる。

講師相互、そして各クラスでの講師と受講者の努力や相互の協力に加え、職員のサポートも有効に作用して、今回もなかなか楽しい講座になったようだ。両クラス合同の打ち上げ会も開かれたということである。

(秋期)

秋期は受講者が多かったうえに、中国語の基礎固めのクラスでも7割くらいが再履修者だった。今回も初めて学ぶ人への配慮が講師の苦心のしどころであったが、講師が事前にそれぞれの目標をはっきりと示したことや、先輩受講者の協力もあって、わりあいスムーズにいったようである。春期には発音の安定を、秋期にはより高い目標を設定して発表をさせるなど動機づけを図ったので、みな一生懸命に努力した。春期には異議や不満があった受講者も、「ついてきてよかった」と講師

に感謝するに至っている。これから中国に留学に行く人、HSKを受けたい人、中国語検定を受けたい人など、本学の公開講座での学習から新しい展開への兆しが見えている。講師はさらなる発展のため、指導しきれなかった部分の補助資料や関連の参考書を紹介したりして、受講者が様々な形で学習できるためのサポートを図っている。

日常会話の中国語の方も再履修者の割合が高い。毎回テーマを決め、今季は「色」について会話と発表の練習を行なった。具体的には、一つの色について、受講者それぞれが事前にその色に関連した話題を考えてきて中国語で発表し、他の受講者が質問したり、感想を述べたりして自由討議を行う。その後、講師が助言や講評によりフォローするという形をとっている。ちなみに同じ色についても、みなそれぞれ全く違う角度から自分の宿題を発表するので話題が広がり、誰もが興味津々で授業に取り組んだようだ。例としては、漢字の起源、中国語の歴史物語、日本語との対照など様々なテーマが出され、さらには色彩に関する中国人と日本人のイメージや文化風俗の違いに対する論議にも発展した。講師は、今季は特に事前の教材や説明をなるべく控えめにして、受講者自身の能力を引き出すことを試みたということだが、再受講者たちも新鮮味を覚えて好評だったようである。

## パソコンコース

春期:5月8日・15日 土曜日<2週連続講座>

秋期:9月25日・10月2日 土曜日<2週連続講座>

<春期講座講師>

### 見やすいホームページを作ろう!

本学文学部人文学科 准教授 福田 博同

春学期パソコン講座「見やすいホームページを作ろう!」を、5月8日(土)、15日(土)に担当いたしました。目的は年齢や障害の有無に関わりなく利用できるホームページの作成です。「アクセシビリティ」、「ユニバーサルデザイン」を考えたW3C標準<sup>(1)</sup>に合致する教材を作成し<sup>(2)</sup>、実習を行いました。その原理を理解していただくため市販ホームページ作成ソフトでなく、Editorを使用しました。講義内容は次のとおりです。1日目:「ショートカットキー」、「ホームページの仕組み」、「XHTMLとCSS」、「W3C標準」、「見本に書き込む」、「単語登録」、「スタイルで変更」。2日目:「ブログを試そう」、「画像を作る」、「音を作る」、「アップロードする」、「まとめ」。

受講された29名のパソコン習熟度理解のため直前アンケートを行いました。50代以上が77%を占めました(40代未満6%、40代17%、50代21%、60代39%、70代17%)。メール、インターネット利用者がそれぞれ90%、ワープロソフト利用者が89%、Excel利用者が69%でした。また、ホームページ作成経験者は7%、ブログ利用者は10%、静止画像作成者は24%、音声作成者は3%でした。受講の

目的は、「とりあえずホームページ作成」が72%、「本格的にホームページ作成」が28%でした。

2日間でEditorによるホームページ作成習得のため、見本を利用して、内容を自由に修正する方法にしました。Office2003以前(利用者55%)とOffice2007以降(利用者45%)でマウス操作が異なることや、キー操作効率化、老眼の方のために「よく使うショートカットキー」の図を用意しました。

アクセシビリティに関しては、総務省の「インターネットにおけるアクセシブルなウェブコンテンツの作成方法に関する指針」<sup>(3)</sup>、岡部正隆氏、伊藤啓氏の「色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法」<sup>(4)</sup>を理解していただき、実際のチェックをAnotherHTML-lint<sup>(5)</sup>で行いました。AnotherHTML-lintチェックでインターネット上のサイトの点数の低さに驚かれた方も多く、アクセシビリティの重要性を理解されたことが受講生全員に伺われました。

2日目の「ブログを試そう」では、実際にメールで登録すると、取りやめが難しい点を考慮して、講師の登録しているブログで方法を懇切丁寧に示し理解していただきました。また、静止画像はWindows付録の「ペイント」で制作、BGM用の曲をフリーソフト「サクラ」<sup>(6)</sup>で作曲し、MIDIファイルへ変換、これらを埋め込んでホームページにします。97%の方が音声を作ったことがなく、新技術を習得で

<sup>1</sup> ホームページの仕様を決める団体「W3C」の「WAIアクセシビリティガイドライン:ページ制作」に従っています。URL:  
<http://www.w3.org/TR/1998/WD-WAI-PAGEAU-TH-19980918/>

<sup>2</sup> 教材はWebサイト「見やすいホームページを作ろう!」にあります。

URL:  
<http://www2.mmc.atomi.ac.jp/~artnavi1/help/webSiteMake/yourHome/index.html>

<sup>3</sup> URL:  
<http://www.kantei.go.jp/jp/it/goudoukaigi/dai5/5siryu7-4.html>

<sup>4</sup> URL: <http://www.nig.ac.jp/color/>

<sup>5</sup> URL: <http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmlint/>

<sup>6</sup> クジラ飛行機氏作成DTMソフト URL:  
<http://oto.chu.jp/>

きた喜びの声もありました。

ホームページ作成で特に難しいのが **Tag** の記入方法、スタイルシート、ファイルの階層構造の理解です。**Tag** の記入方法については、**Tag** と入力文が色で識別できる **Editor** を使用したことや、コピーペーストの方法、単語登録の方法等でハードルが少なくしました。単語登録やショートカットキーなど、便利な機能を覚えられたことについても 17% の評価がありました。

スタイルシートについては、それだけで数日間の授業が必要なものですが、今回は弱視者に見やすい紺地に白太文字、行間 1.5 倍、画面を拡大縮小してもマウスを使わずに移動できるスタイルシートを用意して適用しました。インターネット上の見づらいサイトとの比較を通して、見やすいホームページの重要性を大多数の方が理解されたようです。

ファイル構造を学ぶのが最も難しいのですが、約半数の方が完全理解されたようです。**Editor** 打ちこみで「見やすいホームページ」を、和やかな雰囲気の中で、2 日通して参加された全員が無事作成できました。

アクセシビリティに配慮したホームページは社会の共通認識となりつつあります。また、ICT 関連の最新技術が日々流入してきます。これらのアクセシビリティについても検証しつつ、中高年の方にとって、さらに理解しやすい講座を目指したい、と感じております。

〈秋期講座講師〉

### Excel2007 初歩の初歩

本学文学部現代文化表現学科  
准教授 伊藤 穰

平成 22 年 9 月 25 日(土)および 10 月 2 日(土)、公開講座秋期パソコンコース「Excel2007 初歩の初歩」を担当しました。この講座では、Excel の初心者の方、あるいはこれまでに使ったことがない、という方を対象としました。こうした情報リテラシーを

主題とする講座は、学内外を問わず数多く開講されていますが、昨年度の実績から十分なニーズがあるものとの判断し、講座名を決定しました。今回も定員を大きく上回る希望者がおられたとのことで、企画自体には社会的な意義があったと考えます。その一方で、選に漏れた方々を思うと心苦しいところです。

今回の講座の特徴は、Excel のバージョンを 2007 としたことです。ユーザインタフェースが大きく変わったことで、初心者だけでなく、これまでのバージョンに親しんだ方にとっても学習の機会が必要となっていたようです。また、90 分 4 コマ相当という時間的制約や、想定される受講者の方々の要求などから、機能を網羅的に解説するのではなく、Excel 使用の目的を限定しました。そして、そのために必要な内容を取捨選択し、カリキュラムを構築してテキストを作成しました。具体的には、家計簿の設計から運用までを目標としました。結果として、基礎的な機能の多くは内容に含めることになりましたが、それぞれの位置づけを明確にする効果があったものと考えます。

初日は、私的な家計簿の実物を紹介して、これを目標とすることをお話ししたうえで、基本操作から、セルへのデータ入力の基礎や書式設定、罫線の設定など、ビジュアル面に重点を置きました。二日目は、初日の復習を踏まえたうえで、数式や関数を中心としました。関数は、合計や平均のほか、やや難易度が高い論理関数も含めました。同時に、「フラグ」という考え方を解説し、フラグが立ったものだけを集計する方法を説明しました。両日とも、練習問題を用いて知識の定着を図りました。

受講者の方の経験には開きがあり、基礎的な操作に戸惑っておられる方も見受けられました。講座の進め方において、配慮が不十分な場面があったかもしれません。まずは講師がお手本を示し、その後に受講者の方に操作

をしていただくようにするなど、小さな工夫の積み重ねが必要であると感じます。もっとも、本学の大学院生からなる4名のアシスタントが優秀であり、その活躍によって、全体的には円滑に授業を進行できました。今回の成果と反省を踏まえて、より良き公開講座を実現せねばならないとの思いを強くしました。最後に、ご参加頂いた受講者の皆様に感謝申し上げます。

## 受講生からのレポート

### 春期教養コース（新座）受講生

小林 映子さん

人間存在の根源的両義性—（自己と他者）  
（こころと身体）（清と濁）—見別のもののように感じるが確かにものの裏表。

個人の性格も表面では悪いように見えていても裏を返すとそれが良い面であったりする。例えば短気であること（度を超すと別だが）は、感情が豊かであるともとれる。逆に静かで暖やかと見えているが、実は他人に興味がなく感情の乏しい場合もある。どちらも存在する。

ひとりひとりに目を向けると誰もがかけがえのない存在であり、皆誰かとかかわりあって生きている。

自分の存在価値が認められないと、人とのかかわりを断ち引きこもってしまう事もある。

集団の中で生きていくには、他人とのかかわり合いを大事にし、なおかつ自分らしく生きる……。人と自分とは元々違うということ意識し、他人を認め、価値感がどうしても違うところは、お互い話し合いを重ね、歩み寄るところは歩み寄る努力を大事にするということ。

生きていくうえでトラブルはつきものだが、そのトラブルは自分で作りだしている。

いったん信じ込むと都合の良い事のみが頭に残り、自分の行動は仕方がないが他人のことは性格が悪いなど偏見で見、許せない。

また以前に自分が体験したことと同じ様な状態になった時、また起こるのではないかと不安に思ってしまう。場面場面によって違うということがなかなか認識できない。

自分の中の差別・偏見をなくし、自分の性格を知り、自分をコントロールしながら人と付き合っていきたいと思う。

### 観光による「まちおこし」に関する一考察

### —電線類の地下埋設—

### 春期教養コース（文京）受講生

西村 昭さん

篠原先生のご講話、大変に興味深く拝聴させていただきました。

「まちおこし」には「人づくり」が大切なこと、「もてなし」の心がそこに住む人やお店に不可欠なこと、「まち」そのものが清潔でしかも親しみ易いこと、安心して安全にぶらぶら歩きができること、そういったことの永続性がある初めて、その「まち」に行ってみたいとか再訪してみたいとかの意識につながるのだということが、一つひとつストンと胸に落ちるように納得できました。

「まちおこし」にはいろいろな要素があると考えますが、それを街路の景観という切口から考察してみたいと思います。

世界の有名観光地は言うに及ばず、諸外国の多くの「まち」には配電線も電柱も見当たりません。この町はスッキリしていて美しいなと思って見てみますと、不細工なそれらのものがないことに気付いて心が和みます。このことは多くの方々が海外旅行で経験しておられる筈です。日本国内でも、倉敷の美観地区といった「まち」はスッキリしていて美しく感じます。

（まあ、トロリーバスや路面電車の給電線網については、それなりの歴史と貫録がありますから措いておきましょう。）

そこで私は、電力・電話といった電線類の地下埋設化を、「まちおこし」の一貫として展開するよう提案したいのです。こうすれば狭いと思われる歩道も多少は広くなって、通行上の安全性も向上する筈です。これはまた、仕事がなくなって喘いでいる土木建築業者にかなり長期間大きな仕事をもたらし、大量の雇用創出にも寄与できるに違いないと考えるのです。

近年、この電線埋設化は少数ながら、各地の美観地区に普及し始めたようです。卑近な例として、浅草六区と合羽橋道具街とを結ぶかっぱ橋本通りの「まちおこし」活動について見てみましょう。この街路からは「スカイツリー」が真直ぐに見通せるのですが、現在は電線類が沢山空中を這いまわっていて、極めて煩わしい眺めなのです。そこでこの商店会の発案で、電線類をすべて地下埋設して「スカイツリー」が邪魔物なしに見られるようにするのだそうです。つまり、「スカイツリー」が良く見える「まち」を売りにして、「まちおこし」をするのだと言っておりましたが、下町の人情味あふれる庶民性と相俟って、とても親しみ易さを感じました。埋設が完了したら再訪してみようと思っています。なお、この運動に当該区や地元川柳会などが後援しているというのが面白いなと思いました。

観光立国を標榜し推進しようとするのであれば、電線類は電力会社や電話会社などの民間の所有物だから、行政としては手が出せないのだといった腰の引けた態度ではいけないと思うのです。この際、国も地方自治体も「すぐやる課」的な行動し易いワーキンググループを設けて権限を与え（もちろん民間人も参画する）、観光「まちおこし」を強力に推し進めるべきだと考えます。

どうもありがとうございました。

## 公開講座「跡見流“こだわり旅”への道案内」

### 第1日目の感想

#### 春期教養コース（文京）受講生

#### 宮沢 文二さん

このたびの観光に関する公開講座の第1日目は、さすがに旅行会社で勤務30年のキャリアのある人の話だったので、とても面白いし、聞く人の関心を引いた内容でした。

内閣府（旧内政審議室）で運輸・観光を担当し、陸海空の運輸政策は勿論、観光白書の編集、観光動向調査、さらに観光政策審議会

の事務局も経験したことのある私にとって、観光行政とその展開を思い出し、大変有意義な講座でした。

今日、経済収支が改善され生活のために働いた時代から、余暇を活用した「豊かな旅」の時代へと変わってきましたが、近年は国際化、情報化、少子高齢化と様々な要因が大きく影響し、今後の観光振興の大きな課題となっています。観光は経済効果ばかりでなく、異なる文化や人々に接し、多様性を相互に理解するために多くの分野に関連しています。

跡見学園女子大学に開設された「観光マネジメント学科」の今後の研究と教育の成果に期待しています。

## “My Cross-cultural Experience”

### 春期語学コース（一歩進んだ英会話）

#### 受講生 大嶋 正義さん

It seemed like a dream. Or was it a real dream?

Seventeen people gathered in Atomi University to learn English conversation. Each attendee has a different background. Everybody has a different job, different ability to speak English, and different level of exposure to English-speaking situation. At first, it seemed almost impossible to find a common bond as a basis to learn general idea together. Actually I had a hard time in our first session on the first day. The attendees have been divided into several small groups. We were given the task of hammering out questions about the instructor, Mr. Dean Culell, who would introduce himself by answering the questions. In the group I joined the other members were all fluent English speakers. I was overwhelmed and thought that I should have joined a lower-level class. I even considered quitting the class

immediately.

However, the instructor's endeavor helped to make the diffuse ideas among us integrated and more meaningful. Finally, I found myself free from the sense of alienation. Mr. Culell's method had been expanding both in a horizontal direction and a vertical direction. We were discussing a variety of topics such as language barrier, preparing for a trip, teaching English to very young children, shopping and eating habits, good points and bad points about capitalism, and the most important thing in life. So many themes led us to cognitive expansion in the horizontal direction. He used several methods like watching a catchy commercial on DVD, dictation, group discussion, watching the movies, and personal work. Attendees can explore the contents of the lesson due to the order; from easy to difficult one, from shallow to profound one. It could help us expand our idea in the vertical direction.

My company sent me to the United States twenty years ago, when I was mid thirties. Surrounded by foreign circumstances, I had to overcome communication problems stemming from earth-shatteringly enormous different cultural barrier. Then I was flexible enough to get through it. During the last period of my three-year stay I had become Americanized to the extent I enjoyed communicating local people. I thought I could break through a cross-cultural barrier though I couldn't improve my English fluency as much as I had expected. A barrier was cultural issue, not linguistic one. At that time I even felt more comfortable when I talked in English rather than Japanese.

After I returned to my home country, lots of things happened. I was sick several times and took leaves. I was transferred to the section where I was involved with absolutely domestic affairs. Naturally I led a life away from a different culture or English. During the course of twenty years of time I had built cross-cultural barrier within myself without noticing it. As I mentioned, I was shocked because I had so much difficulty communicating in English at first. But I got used to it gradually and realized I was in the same process as I had in the U.S.

I had one cross-cultural experience in Atomi University.

夏木立英語で夢見て会話する

“Summer-time woods sharing dream and conversation in English”

「語学を学ぶということ」

春期語学コース（一歩進んだ英会話）

受講生 春山 美智子さん

まずは講座の Dean 先生にクラスを持っていただき、とても感謝している。折しも英語学習の方法で壁にぶつかっていて、ようやく、その壁をよじ登る方法のヒントを与えてくださったから。

日本の英語教育についても先生は、よく、ご存知のようで長所、短所も踏まえて授業を進める方針であったように感じた。

英語を母国語としながら外国語として指導できる先生は少ない。紋切形の方法で日本人に英語を指導する先生が多い。Dean 先生は日本人学生の持つ特性を十分に踏まえて指導されていると思う。このクラスが終了したら自分で早速取り入れみようと考えている語学学習法を現在は自分なりにまとめている。英語学習の壁に同じようにぶつかっているサークルの仲間たちと成果を共有できるようにした

いと考えている。語学を学びコミュニケーション能力を高めることの重要性を改めて考える良い機会を得て本当に幸運だったと思う。と同時にもっと多くの社会人が気軽に大學講座を受講できるシステムが構築されることを希望したい。

「On Impressions of Chinese Conversation Class」

秋期語学コース（日常会話の中国語）

受講生 中村 一さん

Through the attendance of the class, the following three words have come up as my answer to the way to deal with Chinese (*Putonghua* or common speech of the Chinese language) conversation:

1. *being* **GENEROUS** to pronunciation

As a learner of a foreign language in Japan's ordinary environment, honing the skill of conversation in the tongue is like practicing swimming on Tatami mats without water. It is a very artificial endeavor and is not effective in rewarding me with the ability to speak the tongue the way natives do. Thus it is not necessary to aspire for an equal footing with native speakers in pronunciation.

This is especially true in the case of Chinese. I believe through my personal experience in a trip to Guangdong with a Beijing native that even my heavily Japanese accented *Putonghua* might attain to a level on a par with those of indigenous Cantonese, for *Putonghua* is a foreign tongue to Cantonese as well.

2. *being* **FREE-WHEELING** in expression

Unlike a pundit who must make remarks as precisely as possible out of his/her

professional necessity such as a lawyer in court, I am in an easy position to enjoy conversation as far as Chinese is concerned. For me, it is enough to get across my order correctly at a restaurant so as not be served with a *Dandanmian* instead of a *Ramen* which is what I am supposed to have ordered, for example.

Conversation is a verbal means of communication so that grammatical accuracy is a secondly concern. Regardless of the impression on the side of my audience, I don't mind as far as I can make myself understood. This is the reason why I adhere to the principle of **FREE-WHEELING** in Chinese conversation.

3. *being* **TENACIOUS** in efforts

Thanks to my aforementioned easygoing way, I was fully able to enjoy the class. This, however, does never mean that sloppy attitude is allowed in my pursuit of better grasp of Chinese. Perfection is out of my tethers, herein lies the reason of being **TENACIOUS** in striving in my efforts to let me come nearer to the summit to the best possible extent. I may only hope to be perfect in tenacity.

Last but not least, I extend my thanks to Karaoke-loving Professor Li Zhenxi and the classmates who were kind enough to have embraced me as I am.

—アクセントについて—

秋期教養コース（文京）受講生

西村 昭さん

今回の講座では、アクセントについて考えさせられることが多かった。いくつか気にか

かることがあるので、述べさせていただく。

(1) 柿と牡蛎

この間、「そのカキは植物の方？動物の方？どちらなの？」とやり合っているのを小耳に挟んだ。そのカキは漢字で表わせば柿か牡蛎かになるが、アクセントの位置によって全く別物になってしまうところが面白い。正しいアクセントとは何か？地方によっても異なるかもしれない、微妙なものだなと思う。他にも例は沢山ある。

(2) “ひろく”のアクセントはどこに置くのが正しいか？

イ)「五カ条の誓文」の冒頭に「広く会議を興し、萬機公論に決すべし」とあり、この“広く”のアクセントはフラットにすると昔教わった。

ロ)駅の放送で、「足許が広く開いている所がありますので……」とやっていて、この“広く”は多くの駅がアタマにアクセントを置いている。

ハ)「広い心で接する」の場合、“広い”のアタマにアクセントを置いたら違和感を覚えまいか？フラットにすべきではと思うがどうだろう。あるいは英単語で名詞を形容詞化する場合、アクセントの位置が変わることがあるように、副詞と形容詞とでアクセントの位置を変更するようになったのだろうか？

(3) 最近のTV、ラジオなどの放送で気になるのは「熱い心で」とか「暑い夏」における“熱い”や“暑い”のアクセントである。キャスターでフラットの発声をしている例が多いが、これでは本や雲が「厚い」というのと混同してしまう。“熱い”“暑い”はやはり真ん中にアクセントを置くべきものと思う。それとも最近では“厚い”並みにフラットにするように変わったのだろうか？

(4) ほかに「オヤッ」と思えるものに出会わすことがあるが、割愛させていただく。

古くもそうであったらしいが、時代によっ

てアクセントも変わっていくものなのだろうから、遅れを取らないように、これからも研鑽を積んでいきたいと思っている。

## ■資料

申込方法・受付期間

■申込方法

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ① 「跡見流“こだわり旅”への道案内」受講希望
- ② 氏名(フリガナ)      ③ 郵便番号・住所      ④ 電話番号
- ⑤ 性別                      ⑥ 年齢                      ⑦ 職業
- ⑧ どちらで本講座をお知りになりましたか？

受付期間 4月5日(月)より受付 (定員になり次第締切)

※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学学務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

TRAIN



東京メトロ丸ノ内線/茗荷谷駅より徒歩2分  
東京メトロ有楽町線/護国寺駅より徒歩8分

MAP(文京キャンパス)



〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2  
TEL: 03-3941-7420 (文京事務室)

申込・照会先



跡見学園女子大学  
学務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6  
TEL: 048-478-3340  
FAX: 048-478-4133  
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp  
URL: http://www.atomi.ac.jp/daigaku/

申込方法・受付期間

■申込方法

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ① 「放送と言葉」受講希望
- ② 氏名(フリガナ)      ③ 郵便番号・住所      ④ 電話番号
- ⑤ 性別                      ⑥ 年齢                      ⑦ 職業
- ⑧ どちらで本講座をお知りになりましたか？

受付期間 8月26日(木)より受付 (定員になり次第締切)

※お申し込み頂いた方々の個人情報は、跡見学園女子大学学務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

TRAIN



東京メトロ丸ノ内線/茗荷谷駅より徒歩2分  
東京メトロ有楽町線/護国寺駅より徒歩8分

MAP(文京キャンパス)



〒112-8687 東京都文京区大塚1-5-2  
TEL: 03-3941-7420 (文京事務室)

※セキュリティの関係上、来校時は門衛に受講証をご提示の上、入館証を身につけていただくよう、ご協力をお願いいたします。

申込・照会先



跡見学園女子大学  
学務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6  
TEL: 048-478-3340  
FAX: 048-478-4133  
E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp  
URL: http://www.atomi.ac.jp/daigaku/

跡見学園女子大学

平成22年度 春期公開講座のご案内

跡見流“こだわり旅”への道案内

平成22年6月12日～6月26日 毎週土曜日<全3回>

時間: 13:00～15:00

対象: 16歳以上の男女

定員: 200名

受講料: 無料

会場: 跡見学園女子大学  
文京キャンパス 2号館 M2304教室

6/12

観光によるまちおこし こだわり旅 への道案内

講師: 本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 篠原 靖

「輝きのある日本へ」と題した政府の成長戦略の柱の一つである「観光による地域活性化」の課題は新たな観光市場の開拓や雇用の創出を行う事にあります。観光による交流人口の拡大を目指す最新の「観光まちづくり」の実例をわかりやすく解説するとともに、今回は北海道の大自然を舞台にした本誌志向の「跡見流こだわり旅」をご提案いたします。

6/19

“歴女”“戦国乙女”を掴め! 「歴史を売る」— 天・地・人の舞台・上・越市等の取り組み—

講師: 本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 村上 雅巳

大河ドラマやアニメなどの影響を受けて高まる歴史人気。「歴女」や「戦国乙女」といった新たなターゲットの出現で旅行業界や地域も「歴史を売る」ことに熱い視線を注いでいます。昨年大河ドラマ「天地人」で話題沸騰した上杉謙信・直江兼続ゆかりの新潟県・上越市の取り組みなどを中心にその可能性を探ります。

6/26

沖縄の聖地と観光 —世界遺産の今を考える—

講師: 本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 塩月 亮子

“南”の島にこだわるフィールド・ワーカーの立場から、もっと深く沖縄を知りたいという方のために、沖縄の聖地巡りの新しい形を紹介します。なかでも、世界遺産に登録された遺跡群のうち、斎場御嶽(サーフあーうたき)とよばれる琉球王国の聖地を取りあげ、その歴史や現状を詳しく語ります。

●3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。

後援: 文京区・財団法人文京アカデミー

跡見学園女子大学

平成22年度 秋期公開講座のご案内

放送と言葉

平成22年11月6日～11月20日 毎週土曜日<全3回>

時間: 13:00～15:00

対象: 16歳以上の男女

定員: 200名

受講料: 無料

会場: 跡見学園女子大学  
文京キャンパス 2号館 M2405教室

11/6

朗読で言葉を味わう

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 広瀬 修子

「朗読」って、何でしょう? いつもは目で読む文学作品などを、「声の作品」として、聞き手に届けること、それが「朗読」です。読み手が読みとったとりの作品として、聞き手の耳に聞こえるように……。今回は、この「朗読」に求められる、さまざまな声の表現について考えます。難しいけれど奥が深い、だからこそ面白い「朗読」の楽しさや、耳で聞くことばの魅力をご一緒に見つけましょう。

11/13

あなたを変える話し言葉

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 田中 浩史

日本語の「書き言葉」は漢字の言葉が多くとても硬い印象を与えます。一方で「話し言葉」はひらがなが多くて柔らかく感じを与えます。日本の社会でいま求められているのは、この両者の中間のような「パブリック・スピーキング(公共的な会話術)」です。人を傷つけずに分かりやすく要領よく意思や情報を伝える話し方を習得すれば、その人の周囲には多くの友人が集まり、ビジネスもきつとうまく運ぶようになります。その秘密の「話術(話し方)」を、放送の世界のアナウンサーの言葉遣いから学んでみませんか。

11/20

放送の漢字表記が変わる

講師: 本学文学部コミュニケーション文化学科教授 小坂橋 靖夫

放送で使う漢字は、国の「常用漢字表」にはほととづいてます。200字近く増えて2,000字を超える「改定常用漢字表」が年内にも使われ始めるにあわせ、放送局は、視聴者が理解しやすいようにと、漢字の使い方を検討しています。ひらがな表記から漢字表記に変わることばや、放送と新聞の違いなどを紹介します。

●3回、全てに出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。

後援: 文京区・財団法人文京アカデミー

## 申込方法・受付期間

### ■教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①「生きる意味」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
- ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?

受付期間 4月5日(月)より受付(定員になり次第締切)

### ■語学コース(英会話・中国語会話)

#### ■パソコンコース

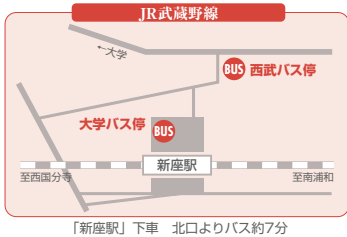
往復はがきにて下記の事項をご記入の上お申し込みください。

- ①希望講座名(例:はじめての英会話) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所
- ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?

受付期間 語学コース(英会話・中国語会話) 4月5日(月)~4月28日(水) ※必着  
 パソコンコース 4月5日(月)~4月22日(木) ※必着

※語学コース及びパソコンコースは、応募者多数の場合は抽選となります。  
 ※お申し込みいただいた方々の個人情報は、跡見学園女子大学学務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

### <新座キャンパスへのご案内>



西武線 「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車

※地球温暖化防止のため、自家用車での来校はご遠慮ください。

## 申込・照会先



### 跡見学園女子大学 学務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6  
 TEL: 048-478-3340  
 FAX: 048-478-4133  
 E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp  
 URL: http://www.atomi.ac.jp/daigaku/

# 跡見学園女子大学

平成22年度春期

# 公開講座のご案内

教養コース 5月22日~6月5日 毎週土曜日(全3回)  
**生きる意味**

パソコンコース 5月8日・5月15日 土曜日(2週連続講座)  
**見やすいホームページを作ろう!**

語学コース 5月15日~7月17日 毎週土曜日(全10回)  
**英会話・中国語会話**



後援: 埼玉県教育委員会・新座市教育委員会

## 教養コース 生きる意味

平成22年5月22日~6月5日 毎週土曜日<全3回>  
 時間: 13:00~15:00 会場: 新座キャンパス 2171教室 対象: 16歳以上の男女 定員: 100名 受講料: 無料

### 5/22 人間存在の根源的両義性

講師: 本学文学部臨床心理学教授 片野 智治

人は関係を生きると同時に、自分自身を生きる在り方を。ゆえに多くの場面で葛藤や両義的な感情(例:愛情)を持つことになる。一方、そのことで、学び育てられる。このような観点から、生きる意味を共に探りたい。

### 5/29 心と体をいきいきと生きる

講師: 本学文学部臨床心理学教授 鶴 光代

ひとがいきいきと生活をしているときは、立ち居振る舞いも伸び伸びとしている。心配事や不安、苦悩があると体の動きは硬くなり不調となる。それは、そうしたストレスを、体で引き受け、踏ん張り、力むことで支えているからである。本講座では、体の動きのいきいき感を取り戻し、心の安定と調和、意欲を高めていく方法を、実技実習を交えながら話します。

### 6/5 トラブルをつくり出す心

講師: 本学文学部臨床心理学教授 藤澤 伸介

トラブルは持ち込まれると思いがちであるが、心の問題に関しては、自分からトラブルを作り出してしまうことが、実は予想以上に多い。これは、ものを考える時の「ことば」に注意を払うことによって、かなり防ぐことができる。この回は、言葉と認知についての考察を深める。

教養コース受講者特典 ■全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成22年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

## パソコンコース ホームページ作成

平成22年5月8日・5月15日 毎週土曜日<2週連続1講座>  
 時間: 13:00~16:10 会場: 新座キャンパス 対象: 16歳以上の男女 定員: 36名 受講料: 無料

### 5/8 5/15 見やすいホームページを作ろう!

講師: 本学文学部人文科学科教授 福田 博同

見本を複写し必要部分を直すだけで、見やすいホームページ作りを実習します。2日間、仕組みの理解、音声・画像素材の作成、ページ作成とアップロードを学びます。

パソコンコース受講者特典 ■全2回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成22年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

## 語学コース 英会話・中国語会話

平成22年5月15日~7月17日 毎週土曜日<全10回>  
 時間: 13:30~15:00 会場: 新座キャンパス 対象: 16歳以上の男女 定員: 各クラス20名 受講料: 15,000円

### 英会話

#### 入門 はじめての英会話

講師: 本学兼任講師 古田島 綾子

この講座は、英会話にはじめてチャレンジしよう、もう一度、英語の基礎からやり直そうという方のためのクラスです。基礎的な事項を学んで英文をつくり、英語に慣れ親しんでいただくように進めます。説明等は基本的に日本語で行います。

#### 初級 やさしく学ぶ英会話

講師: 本学兼任講師 芝田 興太郎

この講座は、日本語での説明のある英会話の授業から、英語のみで進められるネイティブによる英会話の授業への橋渡しのクラスです。語法などの重要事項の説明は日本語で行いますが、それ以外は出来るだけ英語で進め、英語のみでの授業へ進むための準備を行ない、自信をつけてもらいます。

#### 中級 一歩進んだ英会話

講師: 本学兼任講師 D. クレル

この講座は、ネイティブ・スピーカーによる英語のみの授業にチャレンジしようという方のためのクラスです。日常会話などの基本的シチュエーションにおける基本的なやりとりは、英語のみで行えるようにするための授業で、授業は英語のみで進められます。

#### 上級 ディベート英会話

講師: 本学兼任講師 K. スコット

この講座は、ネイティブ・スピーカーによって英語のみで進められるクラスです。日常会話から発展させ、英語で考え、英語で発想し、社会の諸問題に関するディベートやディスカッション、ビジネスにおける交渉等にまで踏み込みます。

### 中国語会話

#### 基礎 中国語の基礎固め

講師: 本学兼任講師 張 国蔭

中国語を勉強しているけれど発音に自信がない。もっときれいな発音で話したい。中国の文化や中国人の生活、考え方をもっと知りたい。四声の苦手を克服したい。中国語検定(準4級)に挑戦してみたい。こんな方たちのための講座です。アットホームな雰囲気の中で、ぜひもう一度、基礎固めにチャレンジしてください。

#### 応用 日常会話の中国語

講師: 本学兼任講師 李 振漢

中国語の基礎を勉強したけど、物足りない。中国の文化などをもっと知りたい。バラエティーな角度から中国語を覚えたい。習ったことを活かして、中国人と交流したい。中国語検定3級2級に挑戦してみたい。こんな方はぜひ本講座に参加して語学力に磨きをかけて、中国理解の輪を広げてください!

語学コース受講者特典 ■開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成22年9月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

## 申込方法・受付期間

### ■教養コース

往復はがき、FAX、Webのいずれかに下記の事項をご記入の上お申し込みください。  
 ①「跡見流“こだわり旅”への道案内(その2)」受講希望 ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所  
 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?

受付期間 8月26日(木)より受付(定員になり次第締切)

### ■語学コース(英会話・中国語会話)

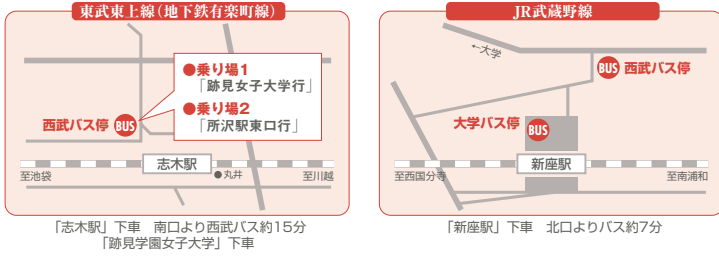
#### ■パソコンコース

往復はがきに下記の事項をご記入の上お申し込みください。  
 ①希望講座名(例:はじめての英会話) ②氏名(フリガナ) ③郵便番号・住所  
 ④電話番号 ⑤性別 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧どちらで本講座をお知りになりましたか?

受付期間 語学コース(英会話・中国語会話) 8月26日(木)～9月16日(木) ※必着  
 パソコンコース

※語学コース及びパソコンコースは、応募者多数の場合は抽選となります。  
 ※お申込み頂いた方々の個人情報、跡見学園女子大学学務部教務課公開講座係にて、講座案内の他、運営に必要な範囲で適切に管理し、使用いたします。個人情報については同意なしに第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

### <新座キャンパスへのご案内>



西武線 「所沢駅」下車 東口より西武バス約25分「跡見学園女子大学」下車  
 ※地球温暖化防止のため、自家用車の来校はご遠慮ください。

### 申込・照会先



## 跡見学園女子大学

### 学務部教務課 公開講座係

〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6  
 TEL: 048-478-3340  
 FAX: 048-478-4133  
 E-mail: d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp  
 URL: http://www.atomi.ac.jp/daigaku/

## 跡見学園女子大学

平成22年度秋期

# 公開講座のご案内

教養コース 10月9日～10月23日 毎週土曜日(全3回)  
 跡見流“こだわり旅”への道案内(その2)  
 共催:新座市教育委員会

パソコンコース 9月25日・10月2日 土曜日(2週連続講座)  
 Excel2007 初歩の初歩

語学コース 10月2日～12月11日(10月30日を除く) 毎週土曜日(全10回)  
 英会話・中国語会話



後援:埼玉県教育委員会・新座市教育委員会  
 埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

## 教養コース 跡見流“こだわり旅”への道案内(その2)

平成22年10月9日～10月23日 毎週土曜日<全3回>  
 時間:13:00～15:00 会場:新座キャンパス 2171教室 対象:16歳以上の男女 定員:100名 受講料:無料

### 10/9 産業遺産を歩こう ―“産業観光”のすすめ―

講師:本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 種田 明

まちづくりや観光の新しい視点としての“産業観光”がいま注目されています。全国各地で話題になっている多数の産業遺産の中から、とくにどっておきのスポット＝世界遺産「石見銀山とその文化的景観」(ほか幾つか)を産業考古学の立場から詳しく紹介します。産業遺産ではない観光スポットを訪れる際にも、大いに参考にさせていただきます。

### 10/16 JALとANAの勝負はどこでついたか?

講師:本学マネジメント学部観光マネジメント学科准教授 鶴田 雅昭

一般に「45・47体制」と呼ばれる昭和47年の航空3社体制から、今日に至る航空規制緩和・自由化の過程における、全日空と日本航空の企業間競争を振り返ることにより、何が原因で日本航空は全日空に抜かれたかを考えたい。

### 10/23 京都・嵐山トロッコ列車の知られざる前史

講師:本学マネジメント学部観光マネジメント学科教授 小川 功

嵐山のトロッコ列車は鉄道そのものを魅力ある観光資源に変貌させた好例です。当該線路区間の興味深い成立過程と関わった人物を、私鉄時代に創始された日本初の「観月列車」イベントに遡って探索してみましょう。

教養コース受講者特典 ■全3回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成23年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

## パソコンコース Excel2007 初歩の初歩

平成22年9月25日・10月2日 毎週土曜日<2週連続1講座>  
 時間:13:00～16:10 会場:新座キャンパス 対象:16歳以上の男女 定員:36名 受講料:無料

### 9/25 10/2 Excel2007 初歩の初歩

講師:本学文学部現代文化表現学科准教授 伊藤 瑠

「まず何をしたらいいのかワカラナイ」といった初心者の方を対象に、家計簿や簡単な会計表の作成に必要な技術や知識について、練習問題を織り交ぜながら丁寧に説明します。

パソコンコース受講者特典 ■全2回、全てに出席された受講者には、公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成23年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

※「Excel」は米国Microsoft Corporationの米国及び、その他の国における登録商標または商標です。

## 語学コース 英会話・中国語会話

平成22年10月2日～12月11日 毎週土曜日(10月30日を除く)<全10回>  
 時間:13:30～15:00 会場:新座キャンパス 対象:16歳以上の男女 定員:各クラス20名 受講料:15,000円  
**英会話**

### 入門 はじめての英会話

講師:本学兼任講師 古田島 綾子

この講座は、英会話にはじめてチャレンジしよう、もう一度、英語の基礎からやり直そうという方のためのクラスです。基礎的な事項を学んで英文をつくり、英語に慣れ親しんでいただくように進めます。説明等は基本的に日本語で行います。

### 初級 やさしく学ぶ英会話

講師:本学兼任講師 芝田 興太郎

この講座は、日本語での説明のある英会話の授業から、英語のみで進められるネイティブによる英会話の授業への橋渡しのクラスです。語法などの重要事項の説明は日本語で行いますが、それ以外は出来るだけ英語で進め、英語のみでの授業へ進むための準備を行ない、自信をつけてもらいます。

### 中級 一歩進んだ英会話

講師:本学兼任講師 D. クレル

この講座は、ネイティブ・スピーカーによる英語のみの授業にチャレンジしようという方のためのクラスです。日常会話などの基本的シチュエーションにおける基本的なやりとりは、英語のみで行えるようになるための授業で、授業は英語のみで進められます。

### 上級 ディベート英会話

講師:本学兼任講師 K. スコット

この講座は、ネイティブ・スピーカーによって英語のみで進められるクラスです。日常会話から発展させ、英語で考え、英語で発想し、社会の諸問題に関するディベートやディスカッション、ビジネスにおける交渉等にまで踏み込みます。

## 中国語会話

### 基礎 中国語の基礎固め

講師:本学兼任講師 張 国蔭

中国語を勉強しているけれども発音に自信がない。もっときれいな発音で話したい。中国文化や中国人の生活、考えをもっと知りたい。四声の苦手を克服したい。中国語検定(準4級)に挑戦してみたい。こんな方たちのための講座です。アットホームな雰囲気の中で、ぜひもう一度、基礎固めにチャレンジしてください。

### 応用 日常会話の中国語

講師:本学兼任講師 李 振漢

中国語の基礎を勉強したけど、物足りない。中国の文化などをもっと知りたい。バラエティーな角度から中国語を覚えたい。習ったことを活かして、中国人と交流したい。中国語検定3級2級に挑戦してみたい。こんな方はぜひ本講座に参加して語学力に磨きをかけ、中国理解の輪を広げてください!

※各講座のシラバスは大学ホームページをご覧ください。

語学コース受講者特典 ■開講回数の8割以上出席された受講者に公開講座修了証を発行いたします。  
 ■今学期(平成23年3月末日まで)内に限り本学図書館を利用することができます(閲覧のみ)。

公開講座ダイジェスト 2010  
跡見学園女子大学公開講座の記録

---

平成 22 年 3 月発行

発 行 跡見学園女子大学

〒352-8501 埼玉県新座市中野 1 丁目 9 番 6 号

電話 048(478)3340

FAX 048(478)4133

E-mail [d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp](mailto:d-kyomu@mmc.atomi.ac.jp)

URL <http://www.atomi.ac.jp/daigaku/>

---

印 刷 株式会社 内田印刷所